**【発展問題】**

【問題1】所得の考え方である制限的所得概念（所得源泉説）を採用した場合の租税負担の問題点について，具体例をあげて説明しなさい。

【解答例1】

　制限的所得概念（所得源泉説）とは，個人に帰属した経済的利得のうち，反復的・継続的に得られる利得のみが所得であるとする考え方です。この考え方によれば，たとえば，個人が出演したクイズ番組で獲得した賞金は，一時的・偶発的に得られた経済的利得であるため，賞金の多寡を問わず，所得の対象になりません。経済的利得を得たにもかかわらず，それが反復的・継続的か一時的・偶発的かによって課税の課否が判断されますので，租税負担の不公平が生じるという問題があります。

【問題2】所得税を計算する仕組みのなかにある所得控除と税額控除の同じ点と異なる点について説明しなさい。

【解答例2】

　所得控除も税額控除もともに結果として税負担を軽減する制度である点は同じです。しかし，その効果について，次のような差異があります。所得控除は，所得金額から一定金額が控除されるため，同じ金額を控除しても当該納税者に適用される税率によって軽減される税額に差が生じることになります。一方で，税額控除は，算出税額から一定金額が控除されるため，当該納税者に適用される税率に関係なく軽減税額は同じになります。